等身大のロールモデル発掘へ

10月12日、本学渋谷サテライトクラスにて、「東京都市大学理工系女性卒業生大規模実態調査結果報告会」が行われた。これは本学のSOFERS（女性研究者支援室）が主催したもので、一般メディア十数社も駆けつける中で行われた。この報告会は、1960年度から2009年度までに本学の理工系学部を卒業した女性に対して行ったアンケート調査の結果を報告し、またそこから見える課題について来場していた7大学の職員を交えて意見交換をするというものであった。

等身大のロールモデルを発掘するという目的のもと行われたこの調査で、まず驚きは23・5%という有効回答率の高さだった。大学への愛着心があり、今まで実態を伝える場がなく、後輩たちのためにと考えた卒業生が多かったための結果であるとの見方を示した。また郵送によるアンケート送付に際して、武蔵工業会との連携をとったことも大きな要因であったと話していた。

アンケートの内容は理工系進学の理由や卒業後の進路、ライフイベントなどについてだが、そこから女子の理系離れや女性を取り巻く環境の問題点が浮かび上がった。理系離れを阻止するために理工系大学ができることは何かや、学生募集、キャリア支援、環境整備についても言及され、他校の大学職員も交えて積極的な意見、ノウハウの交換が行われた。

今回、本学でこれだけ大規模な調査を実施することができたことに対しては、他校から賞賛の声があがっていた。詳しいアンケートの結果はSOFERSのホームページで公開されている。